

CLA-2000による避雷器点検方法

適応機種
NR-24
旧形式 VM-24

避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧（素子に1mAを流れたときの電圧）を測定して判断します。

●端子配列と結線図

本体部

ピン側よりの図

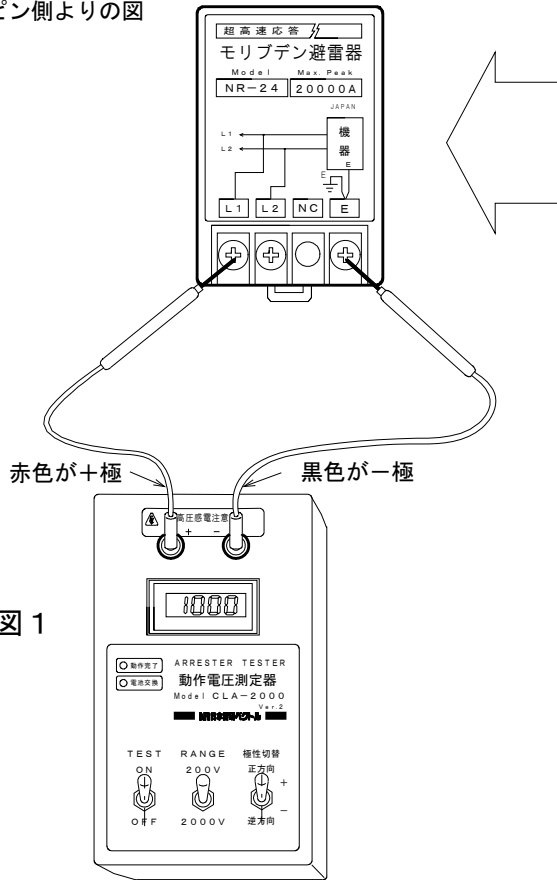
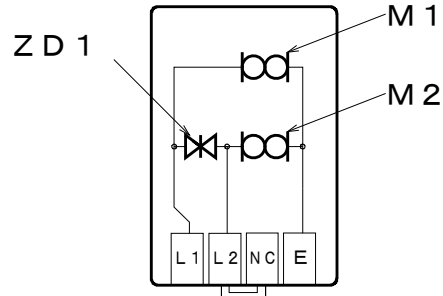


図 1

本体部 ピン側よりの回路図



ZD1：シリコン素子 M1-2：モリブデン素子

点検前・・・ご注意

- ① 配線を外して行ってください。
- ② 感電にご注意ください。
TESTスイッチONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ 試験回数につきまして
2～3回程度で終了してください。
モリブデン式のみでなく酸化亜鉛式、ギャップ式なども劣化の原因になることもあります。

点検後・・・新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。
交換までの雷サージ対策となります。

チェッカーの動作について

チェッカー CLA-2000は、1mAの電流制限つきです。1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。数値はTESTスイッチをOFFにするまで表示します。

●素子の良否判定方法

- ① チェッカーCLA-2000を図1のように接続します。
- ② 測定する端子間の動作電圧に合わせてRANGE（レンジ）を切り換えてください。
- ③ TESTスイッチをON側に投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外の場合は、劣化（不良）と判定します。
但し、M1, M2の短絡時は300V付近となり、自復は不可能です。交換してください。

<NR-24 避雷器> 機器No.2813より

各素子	測定端子 (無極性)	印加電圧 (レンジ)	確認内容	備考
ZD1	L1-L2間	DC200V	35～43V DC 範囲内であること	逆方向も確認してください。
M1	L1-E 間	DC2000V	350～850V DC 範囲内であること	300V以下は交換要
M2	L2-E 間	DC2000V	350～850V DC 範囲内であること	300V以下は交換要

<NR-24 避雷器> <VM-24 避雷器> 機器No.2812まで

ZD1	L1-L2間	DC200V	29～36V DC 範囲内であること	逆方向も確認してください。
-----	--------	--------	--------------------	---------------

避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧（素子に1mAを流れたときの電圧）を測定して判断します。

●端子配列と結線図

本体部

ピン側よりの図

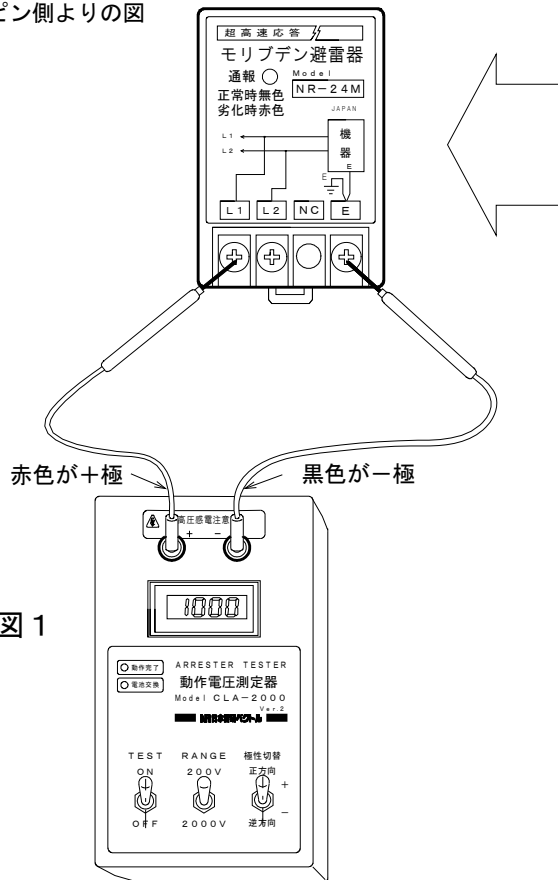
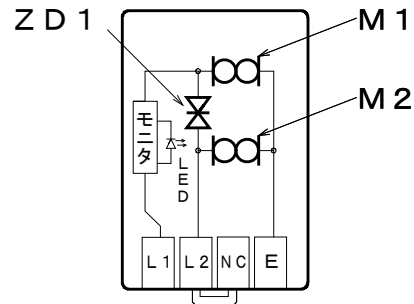


図 1

本体部 ピン側よりの回路図



ZD1：シリコン素子 M1-2：モリブデン素子

点検前・・・ご注意

- ① 配線を外して行ってください。
- ② 感電にご注意ください。
TESTスイッチONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ 試験回数につきまして
2～3回程度で終了してください。
モリブデン式のみでなく酸化亜鉛式、ギャップ式なども劣化の原因になることもあります。

点検後・・・新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。
交換までの雷サージ対策となります。

チェッカーの動作について

チェッカー CLA-2000は、1mAの電流制限つきです。1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。数値はTESTスイッチをOFFにするまで表示します。

●素子の良否判定方法

- ① チェッカーCLA-2000を図1のように接続します。
- ② 測定する端子間の動作電圧に合わせてRANGE（レンジ）を切り換えてください。
- ③ TESTスイッチをON側に投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外の場合は、劣化（不良）と判定します。
但し、M1、M2の短絡時は300V付近となり、自復は不可能です。交換してください。

<NR-24M避雷器>

各素子	測定端子 (無極性)	印加電圧 (レンジ)	確認内容	備考
ZD1	L1-L2間	DC200V	35～43V DC 範囲内であること	逆方向も確認してください。
M1	L1-E間	DC2000V	350～850V DC 範囲内であること	300V以下は交換要
M2	L2-E間	DC2000V	350～850V DC 範囲内であること	300V以下は交換要